令和５年度第３回青梅市協働事業市民推進委員会会議録概要

令和５年１１月１３日
議会棟第２委員会室
午前１０時００分～
欠席１名

１　あいさつ

（市民安全部長）

本日は委員長を中心にまとめていただいた資料にもとづき、委員の皆様に協議いただきたいと存じます。

活発なご意見、貴重なご意見をいただければと存じますので、よろしくお願いいたします。

（委員長）

選挙結果から市長が交代することとなり、新たな動きが想定される。

これまでは青梅市への当委員会の報告をＡ４用紙１枚で行っていたが、時代の変化や提案の効果的な伝達について考える必要があると感じている。

委員の皆様からいただいた貴重な意見を反映し、新しい提案方法を採用したいと考えているので、皆様のご意見を伺いたい。

率直なご意見をお聞かせいただき、新しい市政に反映させていくため、協力願いたい。

２　協議事項

青梅市の協働事業に関する意見等のとりまとめについて（資料１～２）

（事務局説明）

前回の委員会以降に皆様から提出いただいた「青梅市の協働事業に関する意見」およびこれまでの委員会での意見等にもとづき、委員長を中心に資料１および資料２を作成いただきました。

資料２は皆様からの意見等をまとめたものとなり、特に青梅市の庁内会議へ報告すべき項目に特化した文書が資料１です。

本日は委員の皆様から当資料に対する意見をいただき、併せて１１月末までに意見提出様式でのご意見をいただきたいと存じます。

その後、最終的な意見書を作成し、次回の委員会で確定の上、資料１を鑑文として資料２を添付し、年度内に庁内会議である「青梅市市民協働事業推進会議」へ報告する予定です。

資料の内容につきましては委員長からご説明いただきます。

（委員長）

資料２の内容については職務代理と事務局との三者で協議し、ブラッシュアップした。

先に事務局から説明のあった庁内会議には予定が合えば出席したいと考えている。

資料１は、協働事業市民推進委員会の設立から１０年以上が経過し、社会環境が変化してきた中で、当委員会の役割について考察の上作成した。

資料１の１「時代の変化に合わせた市民活動・協働事業の変化の推進について」(1)として自治会組織に言及した。

重たいつながりではなく、うっすらとしたつながりが求められていると感じている。

重たいつながりを求めすぎて自治会から離れて行く人が増えているのだと自分は感じている。

適任者の継続については他市では 10 年前位から取り組んでいる。

青梅市から自治会へ提案することが難しければ、当委員会からガイドラインのような形で提案することが良いのではないか。

私の中では自治会活動は市の根幹をなすものだと思っている。

資料１の１(2)市民活動を俯瞰的に捉える主担当についてだが、市民側から見ると、地域に対し色々な部門から色々な分野の業務が下りてくるが、全体の一体感がないため、統括するような場の設定が必要と提案した。

資料１の２「協働事業の評価について」事業が形骸化しているという意見が出た。

評価シートにそういった部分を項目として入れてみてはどうかと思い提案した。

資料２については、１枚の用紙で全体像を把握しながら問題点を特定する手法とした。

順を追って説明すると、まず、こどもが減っているというより子育て世代

が減っている。
　グラフでいうと赤の部分（親世代）が減るから青（こども）が減る。
　時代の変化につき現状を把握するため当グラフを記載したところである。
　若い世代の減少をなんとか食い止めたいと考えているため、忙しい人でも活躍できるような工夫が必要であると考える。
　地域のつながりにおいては、軽いつながりが好まれる傾向にあるが、地域を支えているのは、濃いつながりをしている２割程度の方々であると捉えている。
　その濃いつながりを大切にしながらも、同時に軽いつながりも尊重する必要があると考える。
　次に高齢者支援において、現在動いている取り組みとしては、包括的な支援として見守りと災害時の要支援者への対応であるが、これらの課題は民生委員だけではとても対処しきれないため、地域全体が連携して取り組む必要がある。
　その中で、日常的な見守りにおいては、軽いサポートが有効であると考えられる。
　例えば１日１回窓が開いていることの確認や、声をかけるなどの簡単なアクションに地域全体が協力し、軽いサポートを提供することで、高齢者の生活の安定や安心感を向上させることが期待できると考える。
　続いて青梅市の協働事業の実施結果と評価を確認したこと、また、その中に形骸化された事業の見直しといった課題があることを記載した。
　また、第７次総合長期計画が策定された中で１０年後の青梅市を見据え、具体像をどう作っていくのか、どう事業展開していくのかについては本委員会で色々と意見を出せればと考えている。
　青梅市は非常に慎重にコロナ対策をしていただいたと思っており、日本全体を見てもそうだと思っているが、死亡率は低いが動けなくなった高齢者も実はかなり数が存在している。
　学校での地域活動が変化しており、クラブ活動などは全市的に地域委託が進み始めている。
　他にも、小規模多機能自治など、より小規模なコミュニティで地域を考えることが今後重要になるとの意見も頂いている。
　当委員会の理想的な姿や今後について、「参画なくして協働なし」といった

意見があることや、市民、市民活動団体、行政だけでなく様々な団体等が広い視野で協働を進めるにはコーディネーターが必要であるとの意見もあった。
　また、行政の課題・市民側の課題の確認の時点から協働をスタートする必要性があるのではという意見もあった。
　資料２の３に記載の各地で実施されている好事例は、新聞記事や私が行った所から引用したものである。
　資料記載の奈義町は子育てに熱心なまちであると住民が自負しており、安心して子育てできると子育て世代が感じている。
　次に境町は実際に私が行ってきた町であるが、工夫すれば人口減少は止められ、人口減少は仕方のないことではないことがわかる好事例である。
　最後になるが、地域活性化は一過性ではできず長期にわたって取り組んでいく事が必要で、地域に魅力を感じるような「たね」を撒いていくことが大事だと考える。
　資料の説明は以上となる。
　委員の皆さんから意見を伺いたい。

（委員）
　自治会に関して素晴らしい意見だと思う。
　自治会は以前に比べて皆に負担がかからないような活動にシフトしてきているが、役員の任期が短いので、新しく先に目を向けたような活動ができていない。
　また、役員はなかなか引き受けてもらえない状況にある。
　地域には色々なところから来た人が住んでいて色々な力が集まっているので、「自治会加入者も未加入者も協力して」と考えてはいるが、そううまくはいかないのが現状である。
　地域全体で集まって話合いをしたいし、何かやっていかないといけないとは思っているが、ただつぶやいただけで終わってしまっている。
　協働事業の評価シートについて、事業を評価しても、その後何も変わっていないと感じている。
　私は市民センター運営協議会委員と学校運営協議会委員にもなっており、学校運営協議会も評価について同じようなことを実施しているが、自己満足だと感じている。

こどもたちの普段の様子は自分では把握しきれていない、わからないにも関わらず評価項目に入っており、おかしいと感じている。

市民センター運営協議会についてであるが、市民センターの文化祭で市と協働したが運営協議会メンバーはほとんど出て来てくれなかった。

何故かメンバーになってるが出てこない委員もいるので、人選を考え直してほしいし、引き受けたからにはある程度は責任を持ってもらいたいとも思っている。

（委員長）

自治会の役員（適格者の継続推進・不可者の免除推進）についての件、市側からの提言があると心強いと思うがいかがか。

（委員）

本当は自治会連合会からできれば良いと思うが、市の方からの提言もあれば色々な形で良いのではと思う。

他市では自治会役員は市から委嘱を受けて、報酬なども出ている所もあると聞いている。

（委員長）

私が所属している自治会では、高齢者については会費負担はしていただくが、隣組長を免除するといった取り組みもあるが、そのような対応が公平であるか否かの議論になることもあり、難しい面がある。

（委員）

隣組の人数もまちまちで隣組長の役職が回ってくる頻度が違う。

高齢者の負担軽減について、話題には出るが、実際の取扱いについてはなかなか難しい面がある。

（委員長）

自治会が機能していかないと地域福祉についても立ちいかなくなる。

（委員）

要援護者について、昔は自治会員外の事をなぜ対応しなければならないのかという意見もあったが、現在ではそうでもなくなっている。

（委員）
　地域のつながり方の問題について、私はこの前の資料に関する打ち合わせでも触れましたが、主にこどもたちと一緒に活動していると、委員長の感覚とは異なり、人は軽いつながりではなく、しっかりと人と繋がりたいという気持ちを持っていると考えている。
　しかし、そのような場がなく、つながり方が分からない状態になっているのではないか。
　生活が楽しいものになるためには、適切なつながりが必要だと思う。
　さらに、私が住んでいる地域では女性が自分の意見を述べる場が存在せず、聞かれることもなく、婦人会もなくなっています。
　この状況を改善し、女性も参加できる場も必要と考える。
（委員）
　なるべく女性に自治会に参画してもらいたいということで、自治会連合会でも女性の意見を伺う会を行った。
（委員）
　意見を言う場が一自治会員である私たちにはないと感じている。
（委員）
　住民視点で言うと、自治会がどう困っているかが自分たちまで聞こえてこない。
（委員）
　どこで、どのように声をかけ合えばよいのか、誰が先に言い出すべきで、また、その役割を果たすにはどのような人物が適しているのか。
　これは単に自治会だけががんばるべきとされる話ではないと考える。
（委員長）
　第７次総合長期計画では、地域福祉コーディネーターがそれに当たるかと思うが、市ではまだ具体的な話は出ていないのか。
（市民活動推進課長）
　各地域に配置するという考えだが、具体的にはまだ決まっておりません。
（委員長）
　どのような人材が地域福祉コーディネーターになるかはまだ決まっていないのか。
　地域福祉コーディネーターのようなイメージでコミュニケーション力を発

揮しながら自治会長をされている方と、あくまでも役職として業務をきっちりこなすタイプの自治会長に分かれている感がある。
（委員）
　コーディネーターの選定について、Ｓ＆Ｄたまぐーセンターのコーディネーターの例でいうと公募であり面接もあった。
　コーディネーターについてはやりたくない、向いていない人がなるものではない。地域福祉コーディネーターは２～３人のチームで編成する事が良いと思う。
（委員長）
　地域福祉コーディネーターの業務が民生委員系なのか市民活動系なのかで変わってくるものと考える。
（委員）
　自分の住む地域では、一自治会員としては声がかからないので自治会に関われない。
　「何かこういうことをやりたい人はいないか？」という感じで人を集めてみるのがいいのでは。
（委員）
　自分は、昔は安協（交通安全協会）に所属し、今は自治会で体育委員となっている。
　地元で神輿が担ぎたくて安協を辞めて神輿会に加入したのに、体育委員は神輿が担げない。
　次の体育委員を探さないと辞められないから自分の好きな神輿が担げない。
　こういったマイナスの考え方が感染し広がっていく。
　自治会をどうにかしようと思うなら「自治会って良いものだよ」とまず自分たちが思えないといけないが、今はそこが無い。
　「自治会ってこういうもの」ってみんな言えない。「いざという時のため」にと言うが、いざという時とは実際どんな時が答えられない。
　半分押しつけになってしまっているし、今の人たちは「良いと思ったこと」しかやらない。
　一番肝心な自分たちにとっての重要性を自治会からは感じ取れていない。
（委員長）
　一般的に集団ができると２・６・２の法則がある。

ぐいぐい引っ張っていける２割の人に自治会長になっていただきたい。
そうすれば６割の人にその想いが伝染しやすいと考える。
そして、残りの２割の人はやれない人である。
（委員）
組織の在り方でいうと確かに委員長の言うとおりだと思うが、こどもに関しては違うと考える。
コロナ禍で自分が所属する自治会は本当に完全に動きが止まった。
会員である自分たちは「何もない」事に少々くすぶっていたが、こちらの思っていることを自治会長に伝える機会もなかった。
（委員長）
コーディネーターがそういった所をうまく繋げられると良いと思うが。
（委員）
コーディネーター的な役割について、市民センターはそのような部分を担っていないのか。
（市民活動推進課長）
かつては地域のイベントなどが市民センターで開催されていましたので、そういった部分もあったと思いますが、現在、そのようなイベント系の業務は社会教育課に移管されております。
（委員長）
色々なご意見をいただいたが、資料１および２について、概要に間違いはないか。
（委員）
資料１に「自治会員回復」という記載があるが、会員数ではなく、その地域を豊かにしようと思う人を増やすというニュアンスの方が必要ではないか。
（委員）
自治会員を増やすことではなく、地域を考える、良くしようという視点を持てる人を増やすことが大事。
（委員）
自分のこどもを見ていて思うけれども、こどもは地域の場所に出ていくのが好きだと感じている。
今年はどこの自治会も盆踊りが大盛況だった。そのような場が必要なのだと思う。

（委員）
　私の所属する自治会では昨年も盆踊りを開催した。
　コロナ禍前は公園で開催していたが、コロナ対策でソーシャルディスタンス確保と検温消毒を徹底するため小学校で開催し、お叱りの電話も受けたが、多くの方々に参加いただき、結果として多くのこどもが来てくれた。
　より多くの参加者を受け入れられるように間口を広げての開催としている。
　盆踊りの実行委員会の委員になってもらうと、より楽しみが増えるものと考えているので、ぜひ多くの方に主催者側の活動にも参加してもらいたい。
（委員）
　自治会やボランティアに参加するとネガティブな側面で「抜けられなくなってしまう」というイメージがある。
　このような点も改善する必要があると思う。
（委員）
　ぷらっとカフェとか、みんなで意見を交わせる場はあったが、出された意見について、あいまいというか「そのような意見もありますね」という状況で意見を聴くだけになってしまっている。
　これからは意見を聴くだけではなく、策定していく場、一緒に創り上げる場にもっと市民を参加させるべきである。
　文化複合施設建設にあたっての文化条例制定について、ぜひそのようにしていただきたい。
（市民安全部長）
　ただ今のご意見である「一緒に創り上げる場への市民参加」につきまして、担当課に伝えさせていただきます。
（委員長）
　第７次青梅市総合長期計画の中に「協働」と「共創」という言葉があるが、調べたところ「共創」という概念には企業も含まれると思うのだが、青梅市としてもっと企業にもまちづくりに参画してもらいたいと考えているのか。
（市民活動推進課長）
　地域だけではなく、地元企業や関係機関とも一緒にと考えているものと捉えております。

（市民安全部長）
　自治会の関係について補足でご説明させていただきます。
　自治会に関する件は市議会の一般質問でもよく質問を受けるところでございます。
　青梅市として、高齢世帯の件、加入率の件、女性役員の活躍や地域・コミュニティの大切さといった自治会を取り巻く状況について、全ての点で大事な課題と認識しております。
　そして、それらの課題の解決については、なかなか悩ましい部分となっております。
　また、自治会においては、女性にもどんどん活躍していただきたいと考えており、そういった環境をつくっていかなければいけないと考えているところでございます。
（委員）
　女性活躍について、例えば女性の役員数を設定する等の目標値を掲げるというのは効果があると思う。
　女性役員が複数人いる自治会もあれば全くいない自治会もある。
　活躍される方が増えれば、周囲にも広まっていくのではないか。
（市民安全部長）
　女性活躍についての重要性は認識しておりますので、ＰＲしていきたいと考えております。
（委員長）
　誰かが具体的に方向性を示さなければ、市はずっと手を付けていきにくいものだと私は思っている。
　しかし市としては立場的に言いづらいところもあるとも思っている。
　なので離れた立場である我々、協働事業市民推進委員会の意見として言ってみようと考えた。
　今回の意見は、決して上からの目線で言っている訳ではなく、動きだすきっかけになればと思いも込めて、自治会についての提案を盛り込んでいるので、ご理解いただきたい。

３　報告事項

（1）青梅市行財政改革推進委員会における外部評価について

ア　日時および会場

令和５年１１月２９日（水）９時３０分～（傍聴受付９時１５分）

議会棟第３委員会室

イ　対象事業

青梅市市民提案協働事業助成金

（事務局による内容説明）

（委員長）

当委員会開始前に事務局より説明を受けたが、対象事業につき特に問題点が指摘された等ではなく、１０年程継続してきている等の理由により評価対象となったとのことである。

（委員）

他に外部評価の対象となる事業はあるのか。

（事務局）

他課の事業につき、もう１事業が対象となっております。

（委員長）

外部評価する委員（青梅市行財政改革推進委員）はどのようなメンバー構成なのか。

（事務局）

学識経験者、地域代表や公募から構成される委員で１０名程度で構成されております。

(2)協働推進員（市職員）対象の研修について

ア　日時

令和６年１月２４日（水）　午後２時～午後５時

（事務局による内容説明）

（委員）

協働推進員は何人いるのか。またどのような単位で配置しているのか。

（事務局）

人数については５０名弱となります。また、課ごとに配置しておりますが、協働に適さないような部署には配置されておりません。

（委員長）
　若い職員が多いのか。
（事務局）
　主任職以上の職員が協働推進員となるため、年齢層についてはバラつきがあります。
（委員長）
　以前は当委員会の委員も研修に参加した事もある。共通の学びという観点から委員の参加も良いと考える。

４　その他
（事務局）
　第４回の委員会は２月に予定しています。後日日程調整させていただきます。